

# Cente Technical Information

|       |  |     |     |     |            |
|-------|--|-----|-----|-----|------------|
| 発行番号  | 101-0101                               | Rev | 第1版 | 発行日 | 2019/04/17 |
| 題名    | 高速fseek機能使用時、古いキャッシュ情報を読み出してしまふ不具合について |     |     |     |            |
| 情報分類  | 障害情報                                   |     |     |     |            |
| 適用製品  | ・Cente FileSystem Ver 6.00 ~ Ver 6.40  |     |     |     |            |
| 影響API | fseek(高速fseek機能使用時)                    |     |     |     |            |
| 関連資料  | なし                                     |     |     |     |            |

## 【現象】

高速fseek機能使用時のシーク後に、正しいデータを読み書き出来ない場合があります。

## 【発生手順】

以下の手順で発生します。

- ①高速fseek機能を有効にした状態で、fseek()を実行。
- ②chg\_filelen()でファイルサイズを1クラスタ分縮小。
- ③chg\_filelen()でファイルサイズを1クラスタ分拡大。
- ④fseek()で終端から先頭に向けて1クラスタ以上シーク。
- ⑤fseek()で終端クラスタにシーク。
- ⑥読み込み系API、又は書き込み系APIを実行。

尚、chg\_filelen()によるファイルサイズ縮小を行わなければ本現象は発生致しません。

## 【原因】

高速fseek機能によるシーク後に、クラスタチェーンの削除を伴うファイルサイズの縮小を行うと、古いキャッシュ情報を参照してしまふ不具合がありました。

シークバッファには、ファイルが持つクラスタチェーン情報をfseek用2次キャッシュとして積み上げていますが、ファイルサイズを縮小した場合、シークバッファに積まれた2次キャッシュをクリアする必要があったのですが、クリアされておらず、削除した位置のクラスタチェーン情報がシークバッファに残った状態となっておりました。

古いクラスタチェーン情報が残った状態で、  
③～⑤の処理を実行すると、削除した位置のクラスタチェーン情報を参照してしまい、この状態で読み込み系API、又は書き込み系APIを実行すると、削除したクラスタに対して、データの読み書きが行われてしまいました。

**【回避方法】**

■プログラムによる回避方法

修正ソースにつきましては、弊社サポートまでお問い合わせ下さい。

以上